

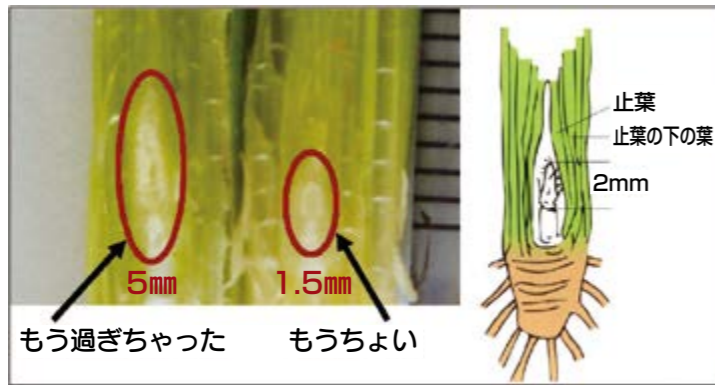
平成27年度 深水管理とケイ酸追肥のチェックポイント

- ・ 生育が進んでいます。7月は平年並みの気象予報ですが、油断は禁物です！
- ・ 稔実歩合向上のため、前歴期間と冷害危険期の深水管理 および ケイ酸追肥を徹底しましょう！

深水管理のチェックポイント

◆幼穂形成期の確認

主稈の幼穂長が平均2mmになった日が幼穂形成期

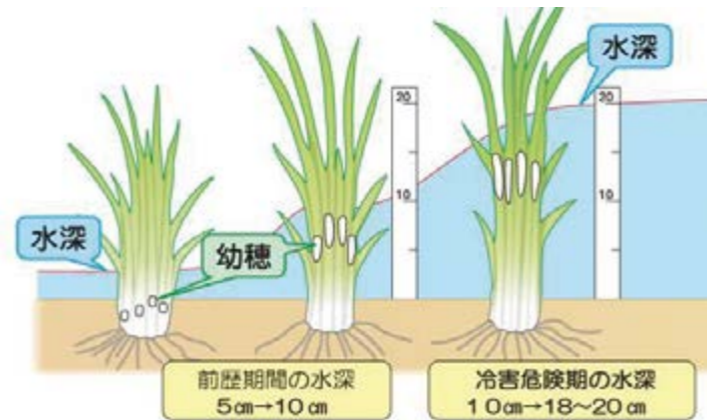


◆前歴期間の時期と水深

- ・ 幼穂形成期のあとの10日間が目安
- ・ 徐々に水を深くして10cmの水深に

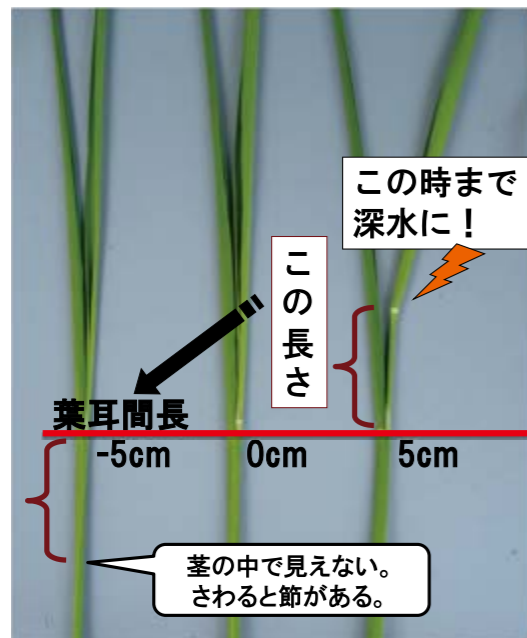
◆冷害危険期の時期と水深

- ・ 前歴期間のあとの10日間が目安
- ・ 冷害危険期の確認は葉耳間長の測定が簡便で正確です。
- ・ 主稈の葉耳間長が-5cmから約80%の茎の葉耳間長が+5cmまで
- ・ 幼穂の高さに合わせ徐々に水を深くして最大18~20cmの水深に



◆冷害危険期の確認

主稈の葉耳間長 -5cm ~ +5cm

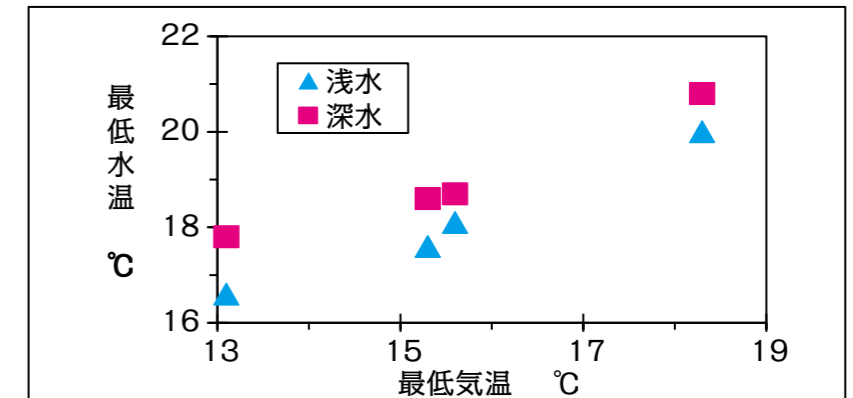


深水の効果

最低気温と最低水温の関係

(7月第3~6半旬、H21 中央農試)

深水は水温の低下が小さく、不稔が半減
浅水39.3% → 深水16.5%



ケイ酸追肥の効果

◆ケイ酸追肥の時期

幼穂形成期から1週間後までの間にケイ酸資材 20kg/10aを投入

